

「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けて

～市民協働による持続可能なまちづくりのモデルケースとして～

今月号では、学研木津北地区内の活動団体「鹿背山元気プロジェクト」の里山活動について、紹介します。鹿背山元気プロジェクトは、里山再生や柿畑の手入れのほか、子どもたちの遊び場づくりをおこなっている団体で、今回は、一般向け講座として野外の陶芸教室をおこないました。今後も初心者向けの「はじめての里山講座」など、いろいろな講座を計画しています。

■里山活動作業

枯れ松には松枯れ病の原因となるマツノマダラカミキリの幼虫がいるので、焼却などの処置が必要となります。今回の陶芸教室では、枯れ松で作った薪を陶芸用の燃料とし、里山の資源を有効活用しました。なお、本講座は全労済地域貢献事業支援プログラムの助成を受け開催しました。

第1回：粘土で形をつくる（4月28日（日）開催）

さわやかな晴天となったこの日、老若男女 40 人が参加しました。

まずは、燃料の薪となる枯れ松の丸太運搬作業。丸太はコマ切りにして運搬しますが、子どもたちには少し重たかったのか、汗を流しながら、一生懸命作業に取り組みました。

次に、昼食の材料を採取するため、竹林でタケノコ掘りを、また野草などの摘み取り作業をおこないました。お楽しみの昼食には、タケノコご飯、野草やカボチャの天ぷらなど、自分で収穫した食材の味は最高で、普段より多く食べてしまう子どももいました。



午後からは、講師の福田藍先生の指導のもと粘土を使って、作品づくりをおこないました。子どもたちは、思い思いに、粘土をひねって動物などの形を作りました。1週間、これを乾燥させます。



第2回：素焼きをする（5月5日（日）・6日（月・祝）開催）

1週間、乾燥させた作品を、工房でいったん軽く焼き、現場で本格的に素焼きをします。素焼きは、前回つくった薪を燃料とします。素焼きは、時間がかかることから、待ち時間を利用して、カレーづくり、タケノコ掘り、丸太運搬作業をおこないました。

そして、キャンプをして、一晩、火の見張りをします。翌朝、灰の中から、動物や埴輪、そして皿や茶碗など、世界に一つしかない、作者である自分だけの楽しい造形が姿を現しました。



※鹿背山の粘土

鹿背山地域は良質な粘土が採掘され、江戸時代末期から明治にかけて「鹿背山焼」を生産していました。奈良の赤膚焼にも土を供給していました。また、瓦やレンガの原料となる土も採掘されていました。今回は、この良質な粘土も実験的に使用して、陶芸をおこないました。

鹿背山元気プロジェクトでは、今後、自然の中に居場所をつくる、里山キャンププログラムに力を入れ、また子どもたち向けのプログラムもおこなう予定です。

これからの季節、一緒に気持ちいい汗を流して、山の気持ち良さを実感しませんか。

日ごろの活動内容をブログで紹介しています。

URL <http://kaseyama.blog.so-net.ne.jp/>

問合せ 鹿背山元気プロジェクト（担当：中村） E-mail: nnnet@mbox.kyoto-inet.or.jp